

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 登録実用新案公報(U)

(11) 実用新案登録番号
実用新案登録第3142653号
(U3142653)

(45) 発行日 平成20年6月19日(2008.6.19)

(24) 登録日 平成20年5月28日(2008.5.28)

(51) Int.Cl. F 1
B 6 5 D 85/57 (2006.01) B 6 5 D 85/57 C

評価書の請求 未請求 請求項の数 6 O L (全 11 頁)

(21) 出願番号 実願2008-2271 (U2008-2271)
 (22) 出願日 平成20年4月10日(2008.4.10)

(73) 実用新案権者 000115968
 レック株式会社
 東京都中央区日本橋浜町三丁目15番1号

(74) 代理人 100092680
 弁理士 入江 一郎

(74) 代理人 100154472
 弁理士 新庄 孝

(72) 考案者 青木 光 男
 東京都中央区日本橋浜町三丁目15番1号
 レック株式会社内

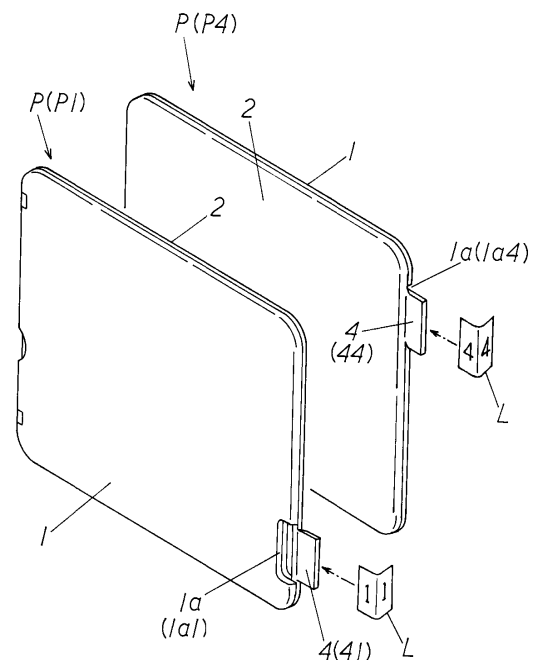
(54) 【考案の名称】 ディスク収納ケース及び一組のディスク収納ケース

(57) 【要約】 (修正有)

【課題】 扁平なディスクの見出しに好適なディスク収納ケースを提供する。

【解決手段】 ディスク収納ケースPは、連結部3を介して開閉可能な第1の蓋1および第2の蓋2を備え、第1の蓋1と第2の蓋2との空間に、記録媒体ディスクが収納されてなる扁平なディスク収納ケースPであって、第1の蓋1の一部を利用して形成された見出し部4と、この見出し部4は、収納される記録媒体ディスクの内容を識別する見出しであり、連結部を支点として回動できる材料で形成され、見出し部4は、連結部を支点として回動し、連結部より外側に突出すると共に、見出し部4に利用された第1の蓋1の一部は、開口部1aとなっている。

【選択図】 図8



【実用新案登録請求の範囲】**【請求項 1】**

連結部を介して開閉可能な第 1 の蓋および第 2 の蓋を備え、前記第 1 の蓋と前記第 2 の蓋との空間に、記録媒体ディスクが収納されてなる扁平なディスク収納ケースであって、

前記第 1 の蓋の一部を利用して形成された見出し部と、

この見出し部は、収納される前記記録媒体ディスクの内容を識別する見出しであり、前記連結部を支点として回動できる材料で形成され、

前記見出し部は、前記連結部を支点として回動し、前記連結部より外側に突出すると共に、前記見出し部に利用された前記第 1 の蓋の一部は、開口部となっている

ことを特徴とするディスク収納ケース。

10

【請求項 2】

連結部を介して開閉可能な第 1 の蓋および第 2 の蓋を備え、前記第 1 の蓋と前記第 2 の蓋との空間に、記録媒体ディスクが収納されてなる扁平なディスク収納ケースであって、

前記第 1 の蓋の一部を利用して形成された正面視、略矩形形状の見出し部と、

この見出し部は、収納される前記記録媒体ディスクの内容を識別する見出しであり、前記連結部を支点として回動できる材料で形成され、

前記見出し部は、前記連結部に接続され、

前記第 1 の蓋には、正面視、略矩形形状の前記見出し部の前記連結部に接続される長辺を除く他の長辺と二辺の短辺に沿う開口部が設けられ、この開口部より前記見出し部が突出しないように位置している

ことを特徴とするディスク収納ケース。

20

【請求項 3】

連結部を介して開閉可能な第 1 の蓋および第 2 の蓋を備え、前記第 1 の蓋と前記第 2 の蓋との空間に、記録媒体ディスクが収納されてなる扁平なディスク収納ケースであって、

前記第 1 の蓋の一部を利用して形成された正面視、略矩形形状の見出し部と、

この見出し部は、収納される前記記録媒体ディスクの内容を識別する見出しであり、前記連結部を支点として回動できる材料で形成され、

前記見出し部は、前記連結部に接続され、

前記第 1 の蓋には、正面視、略矩形形状の前記見出し部の前記連結部に接続される長辺を除く他の長辺と二辺の短辺に沿うような開口部が設けられ、

この開口部には、該開口部を横切って前記見出し部と前記見出し部を除いた前記第 1 の蓋とを接続する部材接続部が形成されている

ことを特徴とするディスク収納ケース。

30

【請求項 4】

見出し部は、記録媒体ディスクの内容を識別する見出しを表示したラベルの貼着面である

ことを特徴とする請求項 1 ~ 3 の何れか一のディスク収納ケース。

40

【請求項 5】

請求項 1 記載のディスク収納ケースを少なくとも 4 個有した一組のディスク収納ケースであって、

前記 4 個は、第 1、第 2、第 3、第 4 のディスク収納ケースであり、

前記第 1、第 2、第 3、第 4 のディスク収納ケースの外周を一致させた積層状態にあつては、正面視、前記第 1 のディスク収納ケースの第 1 の見出し部、前記第 2 のディスク収納ケースの第 2 の見出し部、前記第 3 のディスク収納ケースの第 3 の見出し部、前記第 4 のディスク収納ケースの第 4 の見出し部、が重ならないと共に、階段状に形成され、

前記積層状態にあつては、前記第 1、第 2、第 3、第 4 のディスク収納ケースの順であり、

50

前記第1のディスク収納ケースと前記第4のディスク収納ケースとは、正面視、前記第4の見出し部を右に見て、前記第4の見出し部を右の状態、前記第4のディスク収納ケースを180°反転すると、前記第1のディスク収納ケースの前記第1の見出し部と前記第4のディスク収納ケースの前記第4の見出し部とが同じ位置に配置する関係にあり、

前記第2のディスク収納ケースと前記第3のディスク収納ケースとは、正面視、前記第3の見出し部を右に見て、前記第3の見出し部を右の状態、前記第3のディスク収納ケースを180°反転すると、前記第2のディスク収納ケースの前記第2の見出し部と前記第3のディスク収納ケースの前記第3の見出し部とが同じ位置に配置する関係になっている

ことを特徴とする一組のディスク収納ケース。

10

【請求項6】

請求項1記載のディスク収納ケースを少なくとも2個有した一組のディスク収納ケースであって、

前記2個は、第1、第2のディスク収納ケースであり、

前記第1、第2のディスク収納ケースの外周を一致させた積層状態にあっては、正面視、前記第1のディスク収納ケースの第1の見出し部、前記第2のディスク収納ケースの第2の見出し部が重ならないように形成され、

前記積層状態にあっては、前記第1、第2のディスク収納ケースの順であり、

前記第1のディスク収納ケースと前記第2のディスク収納ケースとは、正面視、前記第2の見出し部を右に見て、前記第2の見出し部を右の状態、前記第2のディスク収納ケースを180°反転すると、前記第1のディスク収納ケースの前記第1の見出し部と前記第2のディスク収納ケースの前記第2の見出し部とが同じ位置に配置する関係になっている

20

ことを特徴とする一組のディスク収納ケース。

【考案の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本考案は、ディスク収納ケース及び一組のディスク収納ケースに係り、特に、扁平なディスクの見出しに好適なディスク収納ケース及び一組のディスク収納ケースに関する。

【背景技術】

30

【0002】

従来、平行に相対向する一对の主板部と、これら主板部の対応する辺を繋ぐ細長い側板部とを有し、この側板部にラベルを設けるようにしたディスク収納ケースがある（例えば、特許文献1参照）。

このディスク収納ケースにあっては、ディスク収納ケースに厚みがある場合、支障がない。

【0003】

しかしながら、ディスク収納ケースの厚みが薄くなると、側板部にラベルを取り付けることができないという問題点があった。

【0004】

40

【特許文献1】特開平6-247486号公報

【考案の開示】

【考案が解決しようとする課題】

【0005】

本考案は、前記した問題点を除去するようにしたディスク収納ケース及び一組のディスク収納ケースを提供することを目的としている。

【課題を解決するための手段】

【0006】

前記した目的を達成するための本考案のディスク収納ケースは、連結部を介して開閉可能な第1の蓋および第2の蓋を備え、前記第1の蓋と前記第2の蓋との空間に、記録媒

50

体ディスクが収納されてなる扁平なディスク収納ケースであって、前記第1の蓋の一部を利用して形成された見出し部と、この見出し部は、収納される前記記録媒体ディスクの内容を識別する見出しであり、前記連結部を支点として回動できる材料で形成され、前記見出し部は、前記連結部を支点として回動し、前記連結部より外側に突出すると共に、前記見出し部に利用された前記第1の蓋の一部は、開口部となっているものである。

【0007】

また、請求項2記載のディスク収納ケースは、連結部を介して開閉可能な第1の蓋および第2の蓋を備え、前記第1の蓋と前記第2の蓋との空間に、記録媒体ディスクが収納されてなる扁平なディスク収納ケースであって、前記第1の蓋の一部を利用して形成された正面視、略矩形形状の見出し部と、この見出し部は、収納される前記記録媒体ディスクの内容を識別する見出しであり、前記連結部を支点として回動できる材料で形成され、前記見出し部は、前記連結部に接続され、前記第1の蓋には、正面視、略矩形形状の前記見出し部の前記連結部に接続される長辺を除く他の長辺と二辺の短辺に沿う開口部が設けられ、この開口部より前記見出し部が突出しないように位置しているものである。

10

【0008】

また、請求項3記載のディスク収納ケースは、連結部を介して開閉可能な第1の蓋および第2の蓋を備え、前記第1の蓋と前記第2の蓋との空間に、記録媒体ディスクが収納されてなる扁平なディスク収納ケースであって、前記第1の蓋の一部を利用して形成された正面視、略矩形形状の見出し部と、この見出し部は、収納される前記記録媒体ディスクの内容を識別する見出しであり、前記連結部を支点として回動できる材料で形成され、前記見出し部は、前記連結部に接続され、前記第1の蓋には、正面視、略矩形形状の前記見出し部の前記連結部に接続される長辺を除く他の長辺と二辺の短辺に沿う開口部が設けられ、この開口部には、該開口部を横切って前記見出し部と前記見出し部を除いた前記第1の蓋とを接続する部材接続部が形成されているものである。

20

【0009】

また、請求項4記載のディスク収納ケースは、請求項1～3の何れか一のディスク収納ケースにおいて、見出し部は、記録媒体ディスクの内容を識別する見出しを表示したラベルの貼着面である。

【0010】

また、請求項5記載の一組のディスク収納ケースは、請求項1記載のディスク収納ケースを少なくとも4個有した一組のディスク収納ケースであって、前記4個は、第1、第2、第3、第4のディスク収納ケースであり、前記第1、第2、第3、第4のディスク収納ケースの外周を一致させた積層状態にあつては、正面視、前記第1のディスク収納ケースの第1の見出し部、前記第2のディスク収納ケースの第2の見出し部、前記第3のディスク収納ケースの第3の見出し部、前記第4のディスク収納ケースの第4の見出し部、が重ならないと共に、階段状に形成され、前記積層状態にあつては、前記第1、第2、第3、第4のディスク収納ケースの順であり、前記第1のディスク収納ケースと前記第4のディスク収納ケースとは、正面視、前記第4の見出し部を右に見て、前記第4の見出し部を右の状態、前記第4のディスク収納ケースを180°反転すると、前記第1のディスク収納ケースの前記第1の見出し部と前記第4のディスク収納ケースの前記第4の見出し部とが同じ位置に配置する関係にあり、前記第2のディスク収納ケースと前記第3のディスク収納ケースとは、正面視、前記第3の見出し部を右に見て、前記第3の見出し部を右の状態、前記第3のディスク収納ケースを180°反転すると、前記第2のディスク収納ケースの前記第2の見出し部と前記第3のディスク収納ケースの前記第3の見出し部とが同じ位置に配置する関係になっているものである。

30

40

【0011】

また、請求項6記載の一組のディスク収納ケースは、請求項1記載のディスク収納ケースを少なくとも2個有した一組のディスク収納ケースであって、前記2個は、第1、第2のディスク収納ケースであり、前記第1、第2のディスク収納ケースの外周を一致させた積層状態にあつては、正面視、前記第1のディスク収納ケースの第1の見出し部、前記

50

第2のディスク収納ケースの第2の見出し部が重ならないように形成され、前記積層状態にあっては、前記第1、第2のディスク収納ケースの順であり、前記第1のディスク収納ケースと前記第2のディスク収納ケースとは、正面視、前記第2の見出し部を右に見て、前記第2の見出し部を右の状態、前記第2のディスク収納ケースを180°反転すると、前記第1のディスク収納ケースの前記第1の見出し部と前記第2のディスク収納ケースの前記第2の見出し部とが同じ位置に配置する関係になっているものである。

【考案の効果】

【0012】

請求項1記載のディスク収納ケースによれば、連結部を介して開閉可能な第1の蓋および第2の蓋を備え、前記第1の蓋と前記第2の蓋との空間に、記録媒体ディスクが収納されてなる扁平なディスク収納ケースであって、前記第1の蓋の一部を利用して形成された見出し部と、この見出し部は、収納される前記記録媒体ディスクの内容を識別する見出し部であり、前記連結部を支点として回動できる材料で形成され、前記見出し部は、前記連結部を支点として回動し、前記連結部より外側に突出すると共に、前記見出し部に利用された前記第1の蓋の一部は、開口部となっているため、見出し部は、連結部より外側に突出しているため、見出し部が見易く、しかも、見出し部をディスク収納ケースに簡易、且つ、確実に形成することができる等の効果を奏する。

10

【0013】

また、請求項2記載のディスク収納ケースによれば、第1の蓋には、正面視、略矩形形状の見出し部の連結部に接続される長辺を除く他の長辺と二辺の短辺に沿う開口部が設けられ、この開口部より前記見出し部が突出しないように位置しているため、運搬等に支障を生じないと共に、ディスク収納ケースの使用にあっては、見出し部を連結部より外側に突出させるように、連結部を支点として回動すれば、見出し部が見易く、しかも、見出し部をディスク収納ケースに簡易、且つ、確実に形成することができる等の効果を奏する。

20

【0014】

また、請求項3記載のディスク収納ケースによれば、第1の蓋には、正面視、略矩形形状の見出し部の連結部に接続される長辺を除く他の長辺と二辺の短辺に沿う開口部が設けられ、開口部が設けられ、この開口部には、該開口部を横切って前記見出し部と前記見出し部を除いた前記第1の蓋とを接続する部材接続部が形成されて、見出し部は連結部より外側に突出していないため、運搬等に支障を生じないと共に、ディスク収納ケースの使用にあっては、開口部を横切る部材接続部をナイフ等により切断し、見出し部を連結部より外側に突出させれば、見出し部が見易く、しかも、見出し部をディスク収納ケースに簡易、且つ、確実に形成することができる等の効果を奏する。

30

【0015】

また、請求項5記載の一組のディスク収納ケースによれば、第1、第2、第3、第4のディスク収納ケースを外周を一致させた積層状態にあって、正面視、前記第1のディスク収納ケースの第1の見出し部、前記第2のディスク収納ケースの第2の見出し部、前記第3のディスク収納ケースの第3の見出し部、前記第4のディスク収納ケースの第4の見出し部が階段状に形成される際、前記第1のディスク収納ケースと前記第4のディスク収納ケースとは、正面視、前記第4の見出し部を右に見て、前記第4の見出し部を右の状態、前記第4のディスク収納ケースを180°反転すると、前記第1のディスク収納ケースの前記第1の見出し部と前記第4のディスク収納ケースの前記第4の見出し部とが同じ位置に配置する関係にあり、

40

前記第2のディスク収納ケースと前記第3のディスク収納ケースとは、正面視、前記第3の見出し部を右に見て、前記第3の見出し部を右の状態、前記第3のディスク収納ケースを180°反転すると、前記第2のディスク収納ケースの前記第2の見出し部と前記第3のディスク収納ケースの前記第3の見出し部とが同じ位置に配置する関係とすることにより、第1、第2のディスク収納ケースと2種類のディスク収納ケースで対応することができ、製作コストの低減化をも図ることができる。

50

【0016】

また、請求項6記載の一组のディスク収納ケースによれば、第1、第2のディスク収納ケースを外周を一致させた積層状態にあって、正面視、前記第1のディスク収納ケースの第1の見出し部、前記第2のディスク収納ケースの第2の見出し部が重ならないようにする際、前記第1のディスク収納ケースと前記第2のディスク収納ケースとは、正面視、前記第2の見出し部を右に見て、前記第2の見出し部を右の状態、前記第2のディスク収納ケースを180°反転すると、前記第1のディスク収納ケースの前記第1の見出し部と前記第2のディスク収納ケースの前記第2の見出し部とが同じ位置に配置する関係にあることにより、第1、第2のディスク収納ケースと1種類のディスク収納ケースで対応することができ、製作コストの低減化をも図ることができる。

10

【考案を実施するための最良の形態】

【0017】

本考案の一実施例であるディスク収納ケース及び一组のディスク収納ケースを図面を参照して説明する。

図1～図8において、Pは記録媒体ディスク10が収納されてなる扁平なディスク収納ケースで、ディスク収納ケースPは、例えば、透明又は半透明で、ポリプロピレン等のプラスチックで形成されている。ディスク収納ケースP内に収納される記録媒体ディスク10は、例えば、CD、DVD、MD等である。

なお、図1記載のディスク収納ケースPは、図8に示すように、第1、第4のディスク収納ケースP1、P4ともなる。

20

ディスク収納ケースPは、図3に示すように、連結部3を介して開閉可能な第1の蓋1および第2の蓋2を備え、記録媒体ディスク10は、第1の蓋1と第2の蓋2との空間に収納される。

【0018】

また、4は第1の蓋1の一部を利用して形成された見出し部で、見出し部4は、収納される記録媒体ディスク10の内容を識別する見出しであり、連結部3を支点として回動できる材料（例えば、ポリプロピレン）で形成され、見出し部4は、図7及び図8に示すように、連結部3を支点として回動し、連結部3より外側に突出する。

この見出し部4に利用された第1の蓋1の一部は、開口部1aとなっている（図8参照）。見出し部4は、図8に示すように、記録媒体ディスク10の内容を識別する見出し（見出しは、例えば、数字の「1」、「2」、「3」、「4」）を表示したラベルLの貼着面である。

30

なお、見出し部4は、場合により、ラベルLを設けず、見出し部4に直接見出しを付する（例えば、サインペンで、見出しを書する。）ようにしても良い。

また、図3に示す5は記録媒体ディスク10を係止する第1の係止部であり、6はディスク収納ケースPを閉じた際、第1の係止部5の内壁内に嵌合する第2の係止部である。

【0019】

従って、この実施例のディスク収納ケースPの見出し部4は、連結部3を支点として回動し、連結部3より外側に突出すると共に、見出し部4に利用された第1の蓋1の一部は、開口部1aとなっているため、見出し部4をディスク収納ケースPに簡易に、しかも、確実に取り付けることができ、更に、該見出し部4は、連結部3より外側に突出しているため、見易い等の効果を奏する

40

【0020】

なお、上述の見出し部4は、ディスク収納ケースPの使用時には、連結部3より外側に突出しているが、ディスク収納ケースPの未使用時、例えば、工場等の出荷時においては、見出し部4が連結部3より外側に突出していると、破損等の不具合があることから、見出し部4は、図1に示すように、連結部3より外側に突出していない。

即ち、見出し部4は、図5に示すように、第1の蓋1の一部を利用して形成され、正面視、略矩形形状ABCDとなっている。この見出し部4は、連結部3に接続され、また

50

、第1の蓋1には、正面視、略矩形形状の見出し部4の連結部3に接続される長辺ADを除く他の二辺の短辺AB、CDと長辺BCに沿うような開口部1aが設けられ、この開口部1aには、該開口部1aを横切って見出し部4と見出し部4を除いた第1の蓋1とを接続する部材接続部1b、1b(図5参照)が形成されている。

【0021】

従って、ディスク収納ケースPの未使用時には、見出し部4は連結部3より外側に突出していないため、運搬等に支障を生じないと共に、ディスク収納ケースPの使用にあつては、開口部1aを横切る部材接続部1b、1bを図示しないナイフ等により切断し、見出し部4を、図7の一点鎖線で示すように、連結部3を支点として回動させて、見出し部4を、連結部3より外側に突出させる。

10

つまり、第1の蓋1には、正面視、略矩形形状の見出し部4の連結部3に接続される長辺ADを除く他の長辺BCと二辺の短辺AB、CDに沿うような開口部1aが設けられ、この開口部1aには、該開口部1aを横切って見出し部4と見出し部4を除いた第1の蓋1とを接続する部材接続部1b、1bが形成されて、見出し部4は連結部3より外側に突出していないため、運搬等に支障を生じないと共に、ディスク収納ケースPの使用にあつては、開口部1aを横切る部材接続部1b、1bをナイフ等により切断し、見出し部4を連結部3より外側に突出させれば、見出し部4が見易く、しかも、見出し部4をディスク収納ケースPに簡易、且つ、確実に形成することができる。

【0022】

なお、上述の実施例においては、部材接続部1b、1bを設けたが、場合により、図13及び図14に示すように、部材接続部1b、1bを省略することもできる。

20

即ち、上述の実施例と同様に、連結部3を介して開閉可能な第1の蓋1および第2の蓋2を備え、第1の蓋1と第2の蓋2との空間に、記録媒体ディスク10が収納されてなる扁平なディスク収納ケースである。

見出し部4は、第1の蓋1の一部を利用して形成された正面視、略矩形形状ABCDとなっている。この見出し部4は、上述の実施例と同様に、収納される記録媒体ディスク10の内容を識別する見出しであり、連結部3を支点として回動できる材料で形成され、見出し部4は、連結部3に接続され、第1の蓋1には、正面視、略矩形形状の見出し部4の連結部3に接続される長辺ADを除く他の長辺BCと二辺の短辺AB、CDに沿う開口部1a'が設けられ、この開口部1a'より見出し部4が突出しないように位置している(図14参照)。

30

【0023】

また、図8に示す一組のディスク収納ケースは、図1乃至図7に記載したディスク収納ケースP(P1、P4)を2個有した第1、第4のディスク収納ケースP1、P4であり、第1、第4のディスク収納ケースP1、P2の外周を一致させた積層状態にあつては(図11及び図12参照)、正面視、第1のディスク収納ケースP1の第1の見出し部41、第4のディスク収納ケースP4の第4の見出し部44が重ならないように形成され、前記積層状態にあつては、第1、第4のディスク収納ケースP1、P4の順となっている。

そして、第1のディスク収納ケースP1と第4のディスク収納ケースP4とは、正面視、第4のディスク収納ケースP4の第2の見出し部44を右に見て、第2の見出し部44が右の状態、第4のディスク収納ケースP4を180°反転すると、第1のディスク収納ケースP1の第1の見出し部41と第4のディスク収納ケースP4の第4の見出し部44とが同じ位置に配置する関係になっている。

40

つまり、図8に示すように、第4のディスク収納ケースP4は、第1のディスク収納ケースP1の表裏を逆にするにより得られ、1種類のディスク収納ケースPで対応することができ、製作コストの低減化をも図ることができる。

【0024】

なお、一組のディスク収納ケースP(P1、P4)は、図8記載に限らず、図9及び図10に示すディスク収納ケースP(P2、P3)においても、同様に適用することがで

50

きる。異なる点は、見出し部 4 の高さ位置である。

即ち、図 10 に示す一組のディスク収納ケースは、図 9 に記載したディスク収納ケース P (P 2、 P 3) を 2 個有した第 2、第 3 のディスク収納ケース P 2、 P 3 であり、第 2、第 3 のディスク収納ケース P 2、 P 3 の外周を一致させた積層状態にあつては (図 11 及び図 12 参照)、正面視、第 2 のディスク収納ケース P 2 の第 1 の見出し部 4 2、第 3 のディスク収納ケース P 3 の第 3 の見出し部 4 3 が重ならないように形成され、前記積層状態にあつては、第 2、第 3 のディスク収納ケース P 2、 P 3 の順となっている。

そして、第 2 のディスク収納ケース P 2 と第 3 のディスク収納ケース P 3 とは、正面視、第 3 のディスク収納ケース P 3 の第 3 の見出し部 4 3 を右に見て、第 2 の見出し部 4 2 が右の状態、第 3 のディスク収納ケース P 3 を 180° 反転すると、第 2 のディスク収納ケース P 2 の第 2 の見出し部 4 2 と第 3 のディスク収納ケース P 3 の第 3 の見出し部 4 3 とが同じ位置に配置する関係になっている。

つまり、図 10 に示すように、第 3 のディスク収納ケース P 3 は、第 2 のディスク収納ケース P 2 の表裏を逆にするにより得られ、1 種類のディスク収納ケース P で対応することができ、製作コストの低減化をも図ることができる。

【 0 0 2 5 】

また、上述した実施例においては、一組のディスク収納ケースを少なくとも、2 個のディスク収納ケース P、 P で形成するようにしたが、本願考案にあつては、これに限らず、図 11 及び図 12 に示すように、一組のディスク収納ケースは、第 1、第 2、第 3、第 4 のディスク収納ケース P 1、 P 2、 P 3、 P 4 と少なくとも 4 個から構成されていても良い。

即ち、第 1、第 2、第 3、第 4 のディスク収納ケース P 1、 P 2、 P 3、 P 4 の外周を一致させた積層状態にあつては、正面視、第 1 のディスク収納ケース P 1 の第 1 の見出し部 4 1、第 2 のディスク収納ケース P 2 の第 2 の見出し部 4 2、第 3 のディスク収納ケース P 3 の第 3 の見出し部 4 3、第 4 のディスク収納ケース P 4 の第 4 の見出し部 4 4 が重ならないと共に、階段状に形成され、前記積層状態にあつては、第 1、第 2、第 3、第 4 のディスク収納ケース P 1、 P 2、 P 3、 P 4 の順となっている。

【 0 0 2 6 】

そして、第 1 のディスク収納ケース P 1 と第 4 のディスク収納ケース P 4 (図 8 参照) とは、上述の実施例と同様に、正面視、第 4 の見出し部 4 4 を右に見て、第 4 の見出し部 4 4 が右の状態、第 4 のディスク収納ケース P 4 を 180° 反転すると、第 1 のディスク収納ケース P 1 の第 1 の見出し部 4 1 と第 4 のディスク収納ケース P 4 の第 4 の見出し部 4 4 とが同じ位置に配置する関係にあり、且つ、第 2 のディスク収納ケース P 2 と第 3 のディスク収納ケース P 3 (図 10 参照) とは、上述の実施例と同様に、正面視、第 3 の見出し部 4 3 を右に見て、第 3 の見出し部 4 3 が右の状態、第 3 のディスク収納ケース P 3 を 180° 反転すると、第 2 のディスク収納ケース P 2 の第 2 の見出し部 4 2 と第 3 のディスク収納ケース P 3 の第 3 の見出し部 4 3 とが同じ位置に配置する関係になっている。

つまり、第 4 のディスク収納ケース P 4 は、第 1 のディスク収納ケース P 1 の表裏を逆にするにより得られ、第 3 のディスク収納ケース P 3 は、第 2 のディスク収納ケース P 2 の表裏を逆にするにより得られ、2 種類のディスク収納ケース P (図 3 参照)、 P (図 9 参照) で対応することができ、製作コストの低減化をも図ることができる。

【 図面の簡単な説明 】

【 0 0 2 7 】

【 図 1 】 図 1 は、本考案の一実施例のディスク収納ケース (第 1 又は第 4 のディスク収納ケース) の概略的正面図である。

【 図 2 】 図 2 は、図 1 の 2 - 2 線による概略的断面図である。

【 図 3 】 図 3 は、図 1 のディスク収納ケースを開いた状態の概略的正面図である。

【 図 4 】 図 4 は、図 3 の 4 - 4 線による概略的断面図である。

【 図 5 】 図 5 は、図 3 の一部を拡大して示す概略的一部拡大正面図である。

10

20

30

40

50

【図6】図6は、図5の6-6線による概略的断面図である。

【図7】図7は、図5の7-7線による概略的断面図である。

【図8】図8は、図3のディスク収納ケースを閉じたものと図3の閉じたディスク収納ケースの表裏を逆にしたディスク収納ケースとで構成された一組のディスク収納ケースの概略的斜視図である。

【図9】図9は、図3のディスク収納ケースと異なる他の実施例の（第2又は第3のディスク収納ケース）の概略的正面図である。

【図10】図10は、図9のディスク収納ケースを閉じたものと図9の閉じたディスク収納ケースの表裏を逆にしたディスク収納ケースとで構成された一組のディスク収納ケースの概略的斜視図である。

【図11】図11は、図8及び図10のディスク収納ケース（一組のディスク収納ケース）の外周を揃えて積層した状態の概略的斜視図である。

【図12】図12は、図11の概略的正面図である。

【図13】図13は、図5の他の実施例を示す概略的一部拡大正面図である。

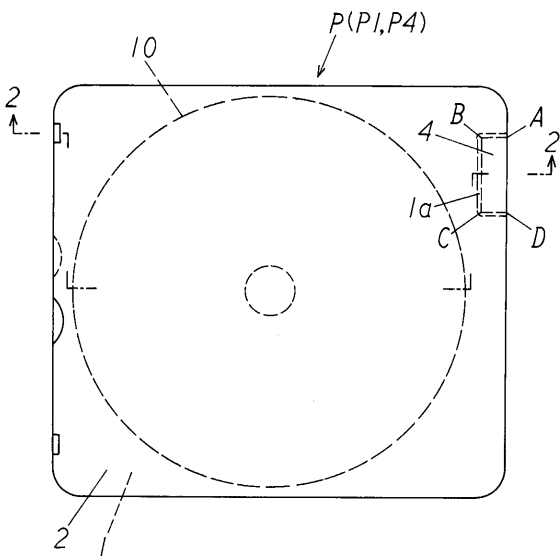
【図14】図14は、図13の14-14線による概略的断面図である。

【符号の説明】

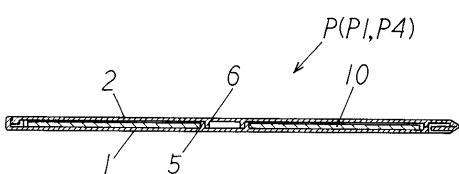
【0028】

- P ... ディスク収納ケース
- 1 ... 第1の蓋
- 1 a ... 開口部
- 2 ... 第2の蓋
- 3 ... 連結部
- 4 ... 見出し部
- 10 ... 記録媒体ディスク

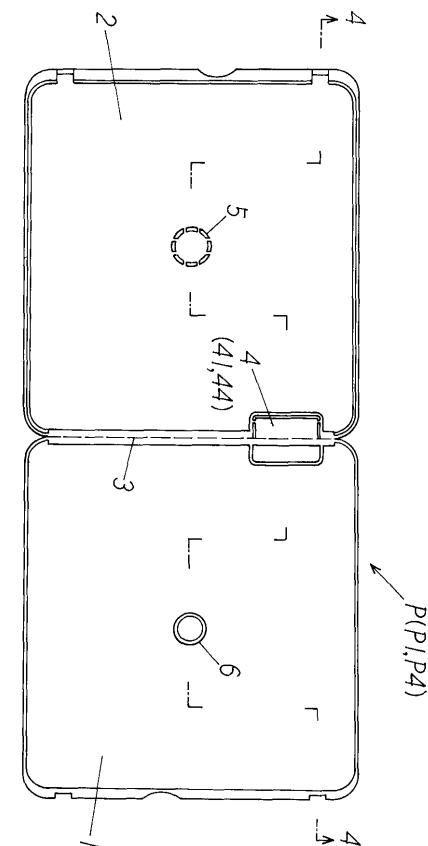
【図1】



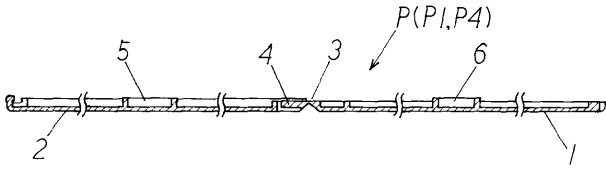
【図2】



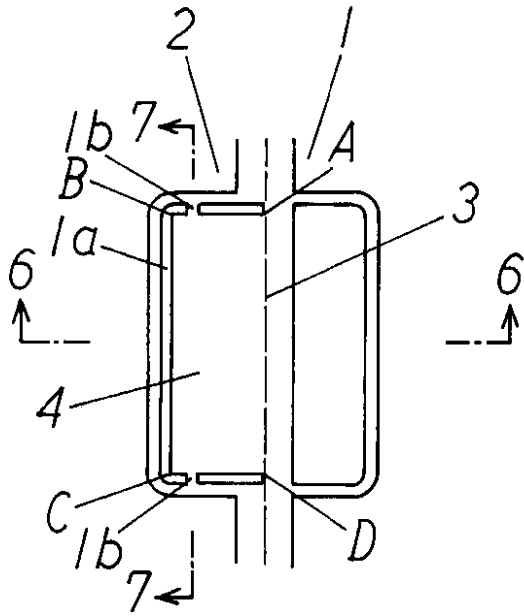
【図3】



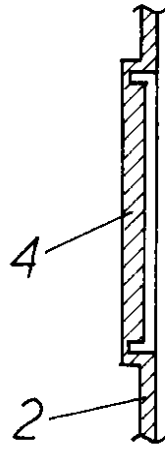
【図4】



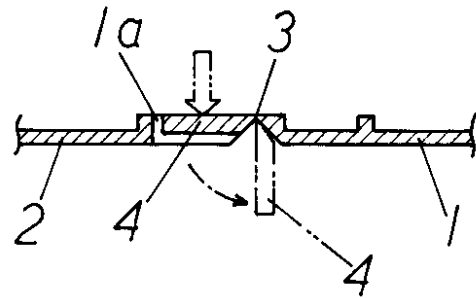
【図5】



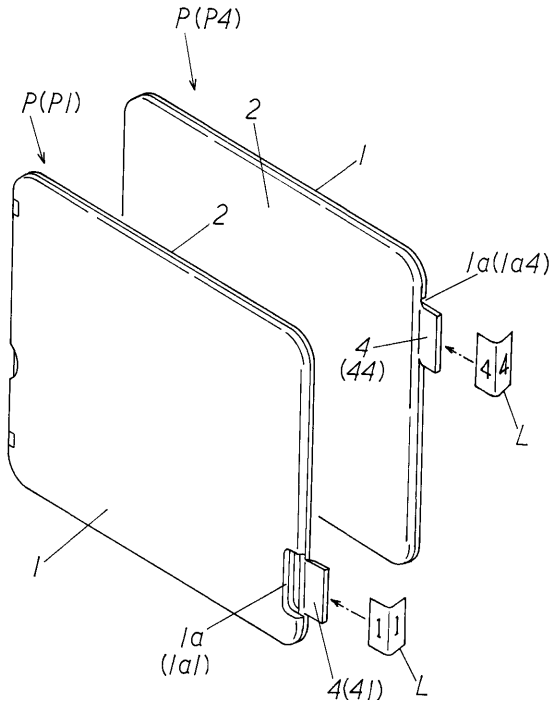
【図6】



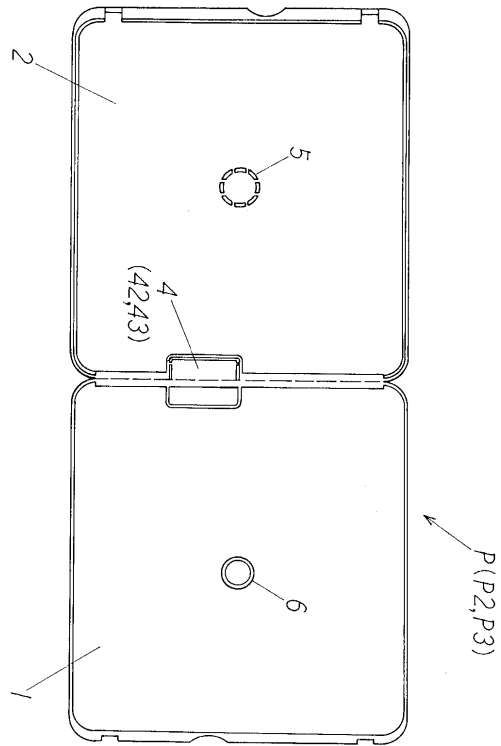
【図7】



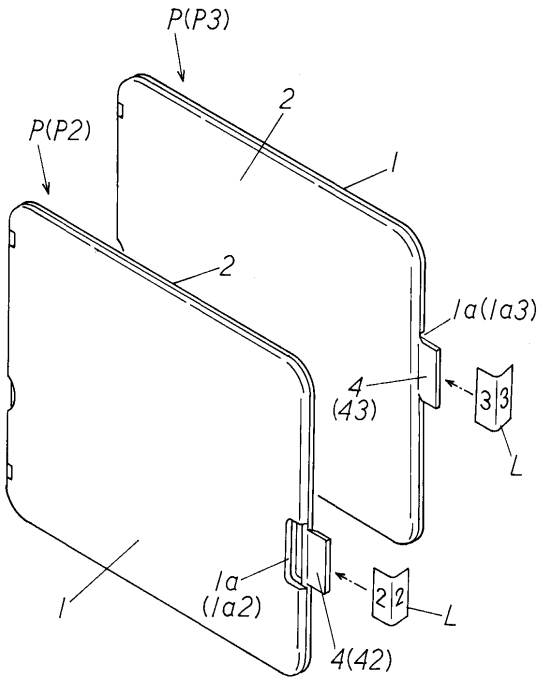
【図8】



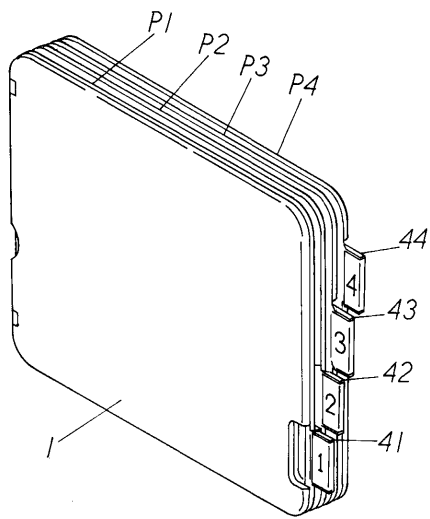
【図9】



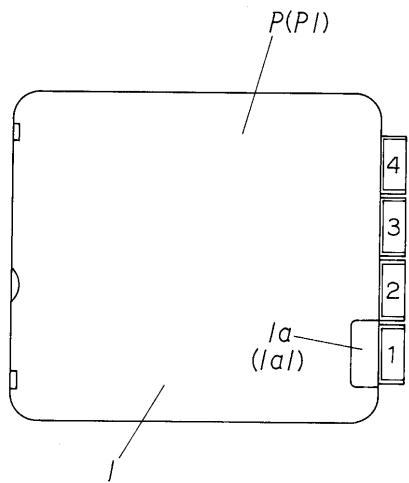
【図10】



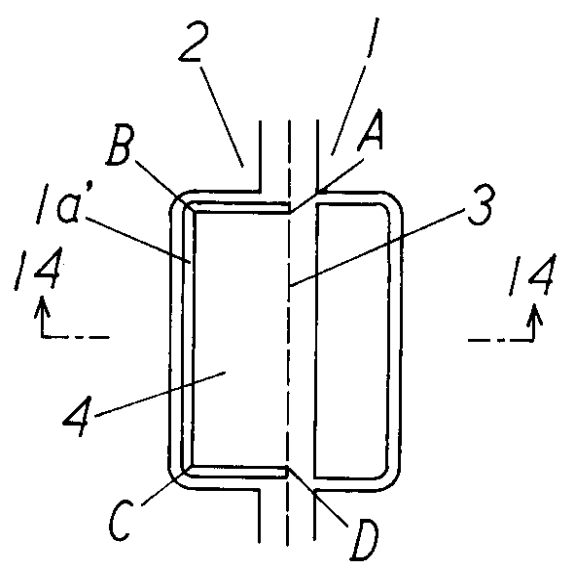
【図11】



【図12】



【図13】



【図14】

